

#### 日程第4 一般質問

○議長（米澤秋男君） 日程第4、一般質問を行います。

一般質問の順序は、通告のあった順序で行います。

それでは、通告1番、12番近藤義次君の一般質問を許可いたします。御登壇願います。

〔12番 近藤義次君 登壇〕

○12番（近藤義次君） 2点について御質問申し上げます。

1問ですが、新町建設計画について、その中の1番目、役場本庁舎新築に対する考え方。それについては、今、町長の施政方針の中で、庁舎建設の中でいろいろお話が出ました。具体的に今後建てるということでもありますから、建設委員会などをつくっていろいろな問題をしていくのか、その辺についてお尋ねをいたしたいと思います。具体的に、わかる範囲内で、もっと一歩進めた答弁をお願いしたいと思います。

次に、中新田消防署移転の説明がこの間全員協議会でなされたわけであります。なかなか今町民がですね、大変移転に対する心配で大騒ぎしているのが現状であります。そういうことを踏まえ、そして住民の地震の問題、あるいはいろいろな災害等の問題を考えてですね、やっぱり消防署にヘリコプターを設置するというような形の作り方ができないものかどうか。加美町は他の町村と比べて山岳遭難が多いと。やはり山持ちであり、そしてまた、周辺に山もあって、毎年山岳遭難で大騒ぎしているのが、多発をしているのが現状であります。そういう意味においても、やっぱり消防署のそばにヘリコプターのセンターを置いてですね、宮城県にまだ県に1台しかないというようなお話であります。やはり栗駒の災害を見ても、その救助の一翼を担っているのはヘリコプターであるというような感じを受けたわけであります。まして、全国各地から26台のヘリコプターが来て栗駒の災害救助に応援をしたということを考えると、消火活動、あるいは救難、あるいは地震等ですね、その災害に対する考え方として、消防署の建設ともども、ヘリコプターのセンターもあってはいいんじゃないかというような考え方がございますので、これに対する町長の考え方をお尋ねいたしたいと思うのであります。

次に、安心安全のまちづくりであります。まさに交通事故多発、自殺多発、非常に多いわけであります。その対策についても施政方針の中で町長は意見が出ておりますが、何とか具体的にですね、もっと交通事故の問題、自殺の問題、まして自殺については21件も発生し、また新年になっても発生しているというようなことを考えると、何とか保健師なり、あるいは、いろいろな関係者の指導、心の指導面がもっと不足しているのではなかろうかというような感じがするわけです。交通事故についても、巡視員のやり方をもっと、老人クラブなりなんなりの方々に巡回指

導をお願いするとか、あるいはいろいろな方法があるのではなかろうかというように私も交通安全協会の役員の一員として感ずるわけでありますが、その辺について具体的に町長が考える交通事故対策、あるいは自殺多発に対する考え方をお尋ねするものであります。

○議長（米澤秋男君） 町長。

〔町長 佐藤澄男君 登壇〕

○町長（佐藤澄男君） 近藤議員の御質問にお答えを申し上げたいと思います。

まず、新町建設計画についての二つの質問がございます。役場本庁舎新築に対する考え方についてお尋ねをいただきました。先ほど、長い施政方針になってしまいましたけれども、最後に一番大事なことを触れさせていただいたということでございます。

合併以来、この問題につきましては、町そのものの懸案事項というふうに言ってもいいのかというふうに思っていました。9月の定例会においても御質問いただき、その折に、これまでの各委員会からの答弁を尊重しながら財政状況を精査して判断したいというふうに答弁をさせていただいてきたところでございます。

特定するその場所の問題について、議会の庁舎特別委員会においても特定されたものではなかったというふうなこともございますので、この財政状況について方向性、これは当然内部の検討として今その方向をつけるということにかんがみて、その事務方の作業を指示しているところですが、いずれ、これまでの賜った検討委員会あるいは地域審議会の御意見、それから議会の報告等、こういったものを踏まえて、住民の皆さんにもう一度投げかける必要があるのかなというふうに思いますので、今年度は、その庁舎というものに対する考え方をキャッチボールする、前半はそういう年にしたいというふうに思っております。その上で、御指摘ありましたように、何かの機関をつくるのかということでございますが、これまで専門的な形でやっていただいたことは、そこで十分詰まっているというふうには感じております。しかし、住民側との皆さんと、あるいはいろんな団体の人たちのやりとりの中でそういう必要性が生じてまいりました場合には、検討する何らかの機関も必要になるのかなというふうに思います。本予算には計上してないけれども、そういうお願いすることもあるかもしれないということは、そういうことでございますので、御理解をいただきたいというふうに思います。

それから、2番目の消防署の関係でございまして、これは広域的な観点でございますので、一つの町でこの改修をというようなことにはいかない現状は御案内のとおりでございますし、その中で、この大崎広域消防事務組合の中での消防の計画、再編の考え方ということで出てきた案が、この間御指摘をいただいた案でございました。

そういうことで、まず御理解をいただきたいのは、大崎広域1市4町の中での枠組みでどうするのかということ、まずとりあえず々——とりあえずというか、一番最初に遠田の消防署が21年度に、今年度——来年度になりますか、21年度に建設が始まるということでございます。これは遠田郡、美里、涌谷、2町でございますが、南郷も含むその区域での統合の案でございます。我が町は、今度計画されておるのは中新田消防署と色麻出張所の統廃合ということでの基本的な計画が示されたというところでございます。

その中でどういう機能を持たせるかというようなことの御指摘をいただきましたから、お答えをさせていただきたいと思うんでありますが、消防の計画というのは、我々はその大崎広域のことで今議論しているわけですが、県の示してきている案というものが、既に御案内のとおり三つにすると。県内を三つに、仙台周辺と仙南、仙北というふうなことに決まったということの報道がなされております。

実は、昨年の秋口に、この案についての首長に対するアンケートがございました。その折、県一つにするという案と、三つにするという案と、五つにするという案がございまして、私は一番、将来方向としては集中管理的なことが考えられていることがあるんだろうというふうに思うんですが、しかし、一番身近な住民に接している町としては、今の大崎広域で進めている計画を優先してやっていただきたいということを申し上げました。それはなぜかという、統合される、統廃合が大崎広域でもされるということではあるんですけども、県の今度示されました三つの案でございますが、その中で我々は県北ブロックということになるんですけども、これは登米、栗原、石巻、気仙沼、大崎地区ということで、要するに、ここ一帯がエリアになるわけですから、今現実的に進めておる大崎広域での計画の方が、より身近な、我々としては具体的なものとしてあるべきだろうという思いで、そのアンケートに答えておったところでございます。

そんな中で、いろんな御指摘をいただいてきているんでありますけれども、今御意見がございましたヘリポートの関係、いみじくも、この計画に出てきたから言う話ではないんですが、いつでも、春の山菜とり、秋のキノコとり、この時期になりますとニュースになるのは仙南の方じゃないんですね。この船形山ろくの遭難事故・事件というのが一番大きな問題としてあるということ、このことについても県当局に打診をさせていただいた経緯がございまして。

御案内のとおり、去年の岩手・宮城内陸地震においても、言うなれば、消防体制ということで、当然、栗原でも立派な体制をとっておったはずなんですけども、具体的に山岳でああいう地すべりあった場合に車が行けないわけです。行けない車、何ぼ立派なもの持ってても、言うなれば無用の長物になってしまうという現実を見せられた思いがいたしたものですから、ぜひ今、近藤議

員御指摘ありましたように、ヘリポートが県の考えとして大きな枠の中で考えていただけるのであれば、このヘリポートの誘致を最優先課題として私は取り組んでいくべきものだというふうに思っておったところです。

そんなことでございますので、ぜひ……、質問の趣旨は、この計画が理解されるのかどうかというふうなことでございますけれども、理解されるように、しっかりとそういうことも踏まえて説明責任を果たしながら、理解をしてもらうように努力をしまいたいというふうに考えておりますので、よろしく御理解をいただきたいと思えます。

また、安心安全のまちづくりについて御指摘いただきました。交通事故の関係につきましては、本当に残念なことに、年末、12月24日でございますけれども、それまで続いておった加美町の「死亡事故ゼロ 842日」という記録が途絶えてしまいました。年明け早々にも老人の方が中新田町内で死亡事故に遭われたということで、相次いだことございまして、これに対応すべく、1月28日付で私と加美警察署長との連名による「加美町交通死亡事故多発緊急事態宣言」というものを発令して、この抑止に向けた強化を図っていくということにしたところでございまして、御案内のように、今月の14日にやくらい文化センターにおいて、老人クラブあるいは交通安全母の会などの皆さんにお集まりをいただいて、加美地区、色麻町も含めたですね、「加美地区高齢者交通事故防止安全宣言大会」というものを開催して、非常にいい集まりだったなというふうに思っており、これを契機に抑止に向けてとスタートした途端にですね、この17日、これは457号線沿い、菜切谷地区でございますが、残念ながら、仙台市の方でございましたが、死亡事故でお亡くなりになるというような悲しい報告をいただいたところでございまして、これにかんがみて、なお一層この交通事故の撲滅にしっかりと対応していかなければならないというふうに思っております。

なお、各団体、あるいは御指摘いただきましたように、老人クラブ等々においてのお互いに声をかけ合う運動、あるいは大会の折に私も申し上げたんですが、家族間で心穏やかに家を出るときに心構えを説いていただくとか、そういったことの啓蒙啓発を今後とも進めて、これ以上に悲惨な事故が起きない、そういう町にしていきたいというふうに念じておるところでございます。

また、自殺の問題について、非常にデリケートなことございまして、御指摘いただきましたように、平成19年に9人、平成20年には6人というふうに町当局では把握をしておる数字でございますけれども、ますますこういう傾向が強まっているということに憂慮しておるところでございます。

町では自殺者数を減少させるために、自殺対策の基本は教育であるという考え方を重視して、

平成16年に作成した健康計画「げんき加美町21」、この中でも心の健康づくりの項目を設けて心の病気について取り組みをさせていただいていること、御案内のとおりでございます。しかし、これをしたからすぐにそういう人たちがいなくなるかということ、なかなか難しい問題でございます。いろいろな講演会や研修会の開催などを通して一定のこの参加者の集まりの成果は見ておるところでございますけれども、なお一層、心の健康づくりボランティア、こういったものの育成もしながら進めていきたいというふうに思っております。

ほかに専門医による精神保健の福祉相談として2カ月に1回開催をしておるわけでありましてけれども、早期に家族あるいは本人の相談に応じられる、そういう機会をつくるということが非常に大事なことだというふうに思っておりますし、この取り組んでいる自殺予防対策の方向というのは、地域において人と人とのつながりを再構築することにもつながることでございますから、この指導の強化を図りながら努力をしてみたいと思いますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

○議長（米澤秋男君） 12番。

○12番（近藤義次君） 役場庁舎の建設の問題でありますけれども、大分町長、いろいろみんなの意見を聞いてというような話がなされたわけです。やっぱりみんなの意見を聞いていたんでは、いつまでたっても決まる話でないと思うんだよね。全部の方に、今まで6年たってもがたがた騒いでいるような状態で、やはり地域審議会の意見なり、あるいは新庁舎検討委員会の答申、あるいは議会の委員会等の話を聞いてもですね、大体、一番余計なのが、今のところに建てるのが一番いいということになると思うんですよ。最初に出された意見ですね。そして、そのそばにはさわざら公園があって、かつて本間町長があそこに病院を引っ張るということであの跡地を買って、一時公園にしたわけですので、あの公園を河川敷の方に移転すればあの敷地も利用できるというような形を考えるとですね、やはりあそこに役場も消防署もまとめて建てることができるというようなことも考えてもいいのではなかろうかというようなふうに思うわけです。

それで、やはり町長、一つの問題を提案してですね、私はこういう方向でやりたいんだと、ここでやりたいんだということをやっぱり出して、もっとリーダーの特権をやっぱり利用してばんやっていってやるのが筋ではないかと思うんですが、いかがです。

○議長（米澤秋男君） 町長。

○町長（佐藤澄男君） 合併以来6年たつんですが、今日まで来たことの意味というものもあるんだろうというふうに思っています。確かにリーダーシップを発揮してどんどんやれということ、ありがたい御指摘でございます。これまでいただいた御意見等、要するに財政の裏づけが大丈夫

かということが一番懸念されることとしてあったわけですから、それをあわせて示す、そういう年に当然なるんだらうというふうに思います。御意見を参考にしながら進めてまいりたいと思います。

位置についてはいろんな御意見がやっぱりあるようです。近藤さんの意見もしっかり考えながら、ほかの人の意見も聞いてみる必要があるんだらうというふうに思いますので、ことし1年、そういう作業で方向をつけたいというふうに思っておりますので、御理解をお願いします。（「終わります」の声あり）

○議長（米澤秋男君） 以上をもちまして12番近藤義次君の一般質問は終了いたしました。

○議長（米澤秋男君） 通告2番、13番新田博志君の一般質問を許可いたします。御登壇願います。13番。

〔13番 新田博志君 登壇〕

○13番（新田博志君） 通告どおり3問質問させていただきます。

その前にですね、先ほどの町長の21年度の施政方針演説を聞いてましたが、一般質問などで質問したことや提案したことなどが随所に盛り込まれており、大変うれしく思いました。

それでは、質問させていただきます。

まず、1問目、学校の業務員についてであります。

今度、小中学校の業務員を新たに採用するときには、臨時職員で対応するというような話を聞きました。仕事の中身を考えたときに、果たしてそれでよいのか、疑問に感じます。聖域なき改革という聞こえはいいですが、お金だけの問題ではないと思います。このことに関して町長、教育長はどのように考えているかお伺いいたします。

それから、役場庁舎について、施政方針には新年度から建設に向けた検討に入るとありましたが、庁舎問題についても、先ほど12番議員も言ってましたが、そろそろ町長なりの考え方というのを聞かせてもらってもいいのではないかと感じております。選挙前の最後の質問なので、生き残ってこれるかどうかわかりませんが、ぜひともお聞かせいただきたいと思います。

それから、中新田小学校の耐震改修についてであります。

この間、中新田小学校の耐震改修の様子を見てきました。せっかくの改修工事なのに、どうも古臭さがなくなってなくて、ちょっと何か、どうしてかなと思ったら、教室の引き戸が汚いまま、本来なら窓のサッシもかえるべきだと思いますが、せめて引き戸だけでも新しくして、すがすがしい環境で子供に勉強させるわけにはいかなかったのか、この辺についてお聞かせ願います。

○議長（米澤秋男君） 町長。

〔町長 佐藤澄男君 登壇〕

○町長（佐藤澄男君） 新田議員の御質問にお答えを申し上げたいと思います。

教育現場のことです。ごさいますから、関連するとか、より深い答弁は教育長からというように、ごさいます。答弁をささせていただきますというふうに思っています。

まず、学校の業務員について、臨時職員で対応ということはどうなんだということですが、基本的には、技能労務職員を取り巻く状況を申し上げますが、地方公共団体の技能労務職員等の給与がどうしても民間事業の従業者に比べて高額となっているのではないかと指摘がありましてですね、批判的なことなんです。平成19年の7月に総務省公務員部長より「技能労務職員等の給与等の総合的な点検の実施について」というのがあるんですが、これによりまして、技能労務職員等の給与等について総合的な点検を実施し、適切に対処するようとの通知があったところごさいます。また、県を通じて総務省から、真にやむを得ない場合を除いて、技能労務職の採用は行わないよという助言ですね、を受けているという状況にあります。

町では職員の適正化計画というのを、御案内のとおり、毎議会、報告をさせてもらっているような状況、御案内のとおりごさいますが、まず、現在までの労務職の採用状況ごさいますが、給食業務はすぐには民間移行できないことから退職補充をしているということ。17年に調理員2名、平成18年に調理員1名を採用しているという状況ごさいます。また、18年の3月の町の行政改革の実施計画では、業務員配置の見直しということで、各種施設の業務員について非常勤職員や民間委託等を促進するよというよ、その計画をしているところごさいます。

そんなところで、労務職員の基本的な考え方につきましては、定員の適正化計画及び行革の実施計画の考え方に基づいて、20年の3月に技能労務職員等の給与等の見直しに向けた取り組み方針、これを策定して、技能労務職員は退職不補充を基本とし、補充しないということの基本とし、業務の民間委託等を推進するよというよ方向づけをさせていただきますところごさいます。

また、この技能労務職員の現状ごさいますけれども、20年の4月の労務職員は、道路等の維持補修関係の運転業務員が5名、学校や保育所等の給食の調理員が16名、学校の業務員が11名、計32名となっております。ことし3月の労務職の退職者は維持補修関係の業務員が3名、調理員が1名の合計4名となっておりますので、21年4月の労務職の職員数は28名になる予定ごさいます。そういうことごさいますので、この方向に沿ってこれを配置をしていくよという考え方に立っているところごさいます。

学校の業務員につきましては、学校の施設の維持管理及び環境整備、事務連絡等さまざまな役割があるわけですね。また、運動会などの行事もございますから、言うなれば縁の下の力持ち的な要素が非常に濃いということは御案内のとおりでございます。こうしたことも含めて、学校とそれぞれの地域とのかかわりといった点からも、地域を熟知した地域内の人の雇用というのが望ましいことだろうというふうに思いますし、地域と密着した業務員という形態という方向を考えておるところでございます。

また、住民と行政の協働によるまちづくりというようなことで、地域審議会にも諮問した経過があるんですが、一つの形だろうというふうに思いますし、PTAとの連携などもこれ大事なことになるというふうに考えております。一遍にすべてこの小中学校の非常勤職員の移行ということではないわけでありましてけれども、労務職の退職者がある場合のさっき申し上げました方向性による補充はしないで、この方向ということでの考えで対応させていただきたいというふうに思っておるところでございます。

また、2番目の役場庁舎の問題でございますが、これも先ほど施政の方針述べさせていただきましたし、近藤議員にも答弁をしたとおりでございますが、これまでの各委員会からの答申を尊重して、財政状況を精査して判断したいということの方向を、今年度中にその形をつけていきたいということの方針でございます。

いろんな要素が含まれていること重々承知をいたしておりますが、町長の考え方はどうなんだということでございますが、これまでいろんな機関でいただいた意見、これは最大限尊重されるべきものであるというふうに思っております。ただ、詰めなければならない問題についてのことは、私なりに住民の意見を聞く、そういう機会を多く持って、きちんとした財政の裏づけなども当然示さなければならない時期に来るだろうというふうに思いますので、その作業も指示をさせていただいておりますし、方向を今年度中に方向をつけるということで御理解をいただきたいというふうに思っております。

また、中新田小学校の耐震の改修につきましても御質問をいただきました。これ、見た目がちょっとおかしいんじゃないかというようなことの御指摘もあるだろうというふうに思いますし、中には情操教育の問題に直結する問題だということで、専門的なとらえ方をさせていただきますとなかなか難しいことになってくるんでありますが、いずれ、この中新田小学校の校舎等の大規模改修工事につきましては、当然のことながら地震対策、予想される宮城県沖地震に対する備えということで、この施設の耐震化と、平成11年度に校舎等の一部を除いた屋上の防水改修工事を実施した際に雨漏りが指摘されました。この破損した内装材の改修を行わなかったというようなこ

と、そういった部分の改修、一部屋上の防水の改修、衛生環境の悪かったトイレのこれは全面改修、国からの通知に基づいた校内のLAN設備などの教育内容及び方法に結合されるような、そういうたぐいのものを主な目的として改修をさせていただいたということでございます。

また、実施設計が17年度から3カ年経過しているということもあって、計画内容に支障が生じた場所の是正を図りながら、いろいろおしかりを受けるんでしょうけれども、その変更契約などのこともしながらですね、真摯に対応してきたということでございます。

内容的には、せめて引き戸だけでもということもございますけれども、計画では、学校から防犯上の観点から教室の出入り口の既存ガラスが曇りガラスから透明ガラスへ交換ということ、あるいはカーテンの交換、図書室のカウンターを設置、木質ロッカーのささくれ等によるふぐあい等々につきまして相談がありまして、関係部署との協議によって今回の工事に計上してきたということもございます。改修工事につきましては、工事が進むにつれまして、部材等の不足箇所の補強、あるいは腐食の劣化による老朽箇所の発見など、事業費の増加が先ほど申し上げたようにございます。

今回の改修工事は、全面改修工事による計画内容ではないということでもございます。学校の意見をさっぱり聞かないでしたということではなくて、その都度やりとりをしながら今日の姿になってきているということもございますので、何とぞ御理解をいただければありがたいというふうに思っております。

なおまた、先ほど質問で今回聞かなければ聞かないようなことになるなんていうような話でございますけれども、ぜひそんなことにならないようにひとつ頑張ってくださいますことを御期待を込めてお願いを申し上げたいと思います。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

〔教育長 今野文樹君 登壇〕

○教育長（今野文樹君） 教育長、答弁いたします。

初めに、学校の業務員についてでございます。

現在、加美町には小学校10校、それから中学校3校の13校がございます。そのうち、先ほどもちょっとありましたけれども、上多田川小学校と鹿原小学校では非常勤の業務員で対応しているところでございます。あとは今のところすべて正職員という対応の仕方になっております。計画では来年度は小学校3校に非常勤の業務員を配置することとしており、今後も順次非常勤で対応していこうかなというふうに考えております。

また、町内幼稚園、小学校、中学校におきましては、調理員、介助員、保育士、あるいは事務

補助職員なども非常勤職員で対応している状況でございます。同様なことは他市町村も同様な対応の仕方に現在のところなっているかと考えております。

個々の学校に携わる業務員あるいは教員等につきましては校長が直属の管理監督者ということですので、過日、校長会から、臨時業務員の場合にですね、どのようなことが考えられるか、あるいはどのような要望等があるかということにつきまして意見聴取しまして、町の方とも話し合い、校長会とも話し合っておりますね、勤務時間の割り振りとか、あるいは除雪作業の確認とか、あとは外勤といたしまして外の方に出て行って、郵便局や役場とかですね、外回りをすると。施設設備管理等のあり方について確認するとともに、今後とも業務員のサービスの見直しを含めて教育委員会として指導監督していきたいなと思っておりますので、御理解のほどをお願いしたいなと思っております。

最後にですけれども、校長会と話し合ったときに何人かの校長が、既に、派遣社員というんでしょうか、派遣社員が配置されている学校で校長として仕事をしてきた経験からですね、できるだけ学校の近いところ、地元からの採用という強い要望が出されておりましたので、町の方にも伝えておきました。

それから、中新田小学校の耐震改修についてですけれども、これまで、平成20年の6月からことし1月までですね、その都度定例の打ち合わせを行いまして、19回行ったわけですが、その会議に学校も同席し、それから学校の要望や質問、その会議の中で可能な限り建設課と協議・調整を図りながら、これまで建設、改修工事をですね、進めてきたところでございました。そんな中で、直すべきところにつきましては、先ほど町長から話があった点ですね、かなり改善したところもございます。

引き戸が汚いという御指摘であって、かえた方がいいんでないかというお話もございましたけれども、汚いというよりは、古いというんでしょうかね、まだ頑丈なんですけれども、我が町の財政事情もございますし、うちの建てかえ、あるいはいろんなものを買うという場合にですね、財政状況等をかながみて、今回のメインであります耐震補強というのを第一義的に工事を行っているわけでございます。情操的にどうかということがございましたけれども、使えるものを大切に使用して、そういう心も養っていきたいなと思っておりますし、省資源ということもあわせてですね、児童の心にしみ込ませていくのも必要なと思っておりますので、御理解のほどお願いしたいと思います。

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） 皆さん篤とわかってやってらっしゃるんだなということはよく理解できま

した。というのはですね、もちろん学校の業務員のことですが、本当に雪掃きもやらなきゃならない、それから運動会の支度もしなきゃならない、銀行にも行かなきゃならない、何でもかんでもやる仕事なんですよ。だからやっぱり、近くの方であれば朝早く来て雪掃きしてくれたりなんかやってもらっているわけですけども、これが臨時になった場合に、果たして、業務委託という話もありましたが、そういうことに全部こたえられるのかどうかと。臨時ですと週35時間でしたっけ、何かそういう時間制限もありますよね。そういうことが果たしてこの業務員の仕事に向くのかどうかという、そういうこともお答え願いたいと思います。

それから、調理員は大分臨時が多くなりましたよね。果たしてそれで子供の食の安全が守れるのかどうかという問題も当然出てくると思いますので、その辺についてもお答え願いたいと思います。

それから、役場の庁舎についてであります。これは、何ですかね、何を、どういう庁舎にしたいのかということだと思えます。ですから、これ書いてありますように、防災機能という点でつくるのであれば、羽場裏とか城生裏の少し高台のようなところにつくるべきだろうし、それから今後の発展や道路の推進とかを考えてつくるのであれば、ゴルフの打ちっ放しの練習場の跡のあたりにつくって、現在県道工事がストップしているパチンコ屋からのあの道路とこっちから行く 347をつなぐとか、それから、できるだけ金がかからない方向でやりたいんだといえば、庁舎の西側を使うとか、そうやって、何をもとにして考えるのかという、そういう考え方だけでもお示し願えないでしょうか。それをお聞きしたいと思います。

それから、小学校の耐震改修についてであります。この間、副町長には実はお話し申し上げたんですが、「副町長、見てきたのすか」と言ったら、「見てきました」ということだったので、小学校に行って校長に「副町長来たっけすか」と言ったら、何か「私は把握しておりません」と言うから、正式なあれで行ったんじゃないかと、ちょっと見てきたということだと思えます。ありますが、実は、あの戸、物すごく古くてですね、レールもコンクリートに埋まっているようなレールで、物すごい重いんですよ。それで、あれ大人の力だと簡単なんですけれども、果たして小学校1年生があの戸をあけ閉めするのにどうなのかって考えると、かなりやばい状態なのかなと。せめて……、それで、中新田小学校の子供たちにとっては、ほかの学校が全部新しくなっていく中で、待ちに待った改修工事なんですよ。その待ちに待った改修工事で、「ああおら方の学校もやっと新しくなる」って、「ああ教室の出入り口の戸だけは汚いままかい」というような非常に落胆ぶりも見えるわけでありますので、その辺についても一度お聞かせ願いたいと思います。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

○教育長（今野文樹君） では、教育長、お答えいたします。

初めに、臨時業務員のことなんですけれども、現状を申し上げますと、業務員は、例えば本務の業務員もですね、時間の割り振りをして勤務しております。昔のように朝から寝るまでと、学校の面倒、先生方の面倒を見るという体制ではなくて、会社員みたいなシステムになっております。ですから、朝6時半なり7時に出勤したときには、その分早く帰る。あるいは土曜日や日曜日に行事で出勤したときには、その分振りかえるという振りかえ体制がきちっとなっております。したがって、外勤とか行事等にも、他市町村でもやっておりますように、十分に、最初のしつけ等ですね、サービスの確認と指導ということによっては対応できるのではないかなというふうに考えております。

それから、食の安全面で臨時職員のことについて懸念があるというお話でございましたけれども、現状は、本務職員と、正式の調理員、町の調理員さんと臨時職員、それから県費負担教職員の学校栄養士と、これが体制となっております。学校栄養士の指導のもとにですね、町の本務職員、調理員、本務調理員を指導しながら、そして臨時調理員を動かしながらという体制で調理の食の安心安全を守っているという状況にありますので、大丈夫かなというふうに考えているところでございます。

それから、三つ目の中新田小学校の耐震改修で引き戸ということでしたけれども、私も中新田小学校に月に何回かですね、校長室等に行った際に2階、3階の方まで見ておるわけなんですけれども、子供たちがきちっと入って授業風景しているところに、ちょっと失礼しますということで戸を引きながら見てきましたけれども、恐らく議員さんが行ったときに渋いところはですね、それなりの手当てをしておいたのかなと思っております。校長先生も「あらっ軽くなったわね」なんて言いながら私を案内しておりましたので、若干古いながら、大きな、心が穏やかでなくなるとか、教室に入るときにいらいらするという状況ではないのではないかなというふうに認識しているところでございます。以上でございます。

○議長（米澤秋男君） 町長。

○町長（佐藤澄男君） 庁舎問題について再度質問がございました。何を目指すかということで位置も関係あるんじゃないかというような話でございますが、いろんな見方があるでしょうけれども、考え方は、今の町の状況、人口の減少社会に入っていくわけです。そんな中で、将来の加美町はじゃあどういふふうにあるべきかという構想、将来の展望ですね、こういったことが一番底辺になければいけないことだろうというふうに思っております。

17年に検討委員会がつくられて、さまざまな資料が出されました。そのときの見通しもあったわけですが、より具体的に、この3年、4年の間に、方向といいますか、その数字的なものも微妙に変わってきているところもあるなというふうに感じております。そんな中で、その災害時のことは当然のことでございますし、また、先ほど申し上げましたとおり、コミュニティー的な活動の拠点というよりどころ、こういったものが当然考えられますし、何よりも、合併をした町その庁舎、シンボルということを考えれば、その位置についても十分配慮をする必要があるんじゃないだろうかと、そういう意見も強く、届いている意見としてはあるんです。そういうことを整理した上でということでの今年度の取り組みと、21年度の取り組みということで先ほど申し上げさせていただいたところでございますので、御理解をいただきたいというふうに思います。

それから、あとは、さっき教育長答えましたから、よろしくをお願いします。

○議長（米澤秋男君） 13番。13番に申し上げますが、一問一答方式ですから……（「ああそうでした」の声あり）一括方式じゃないので、一つの質問事項に対してひとつやってください。よろしくをお願いします。13番。

○13番（新田博志君） 何か勘違いしました。済みませんでした。

大体話は終わってるんですが、どうなんですかね、さっきの話で納得しろと言われても、何か余り納得できないような気がするんですが、例えば今、調理員さんの話ですが、例えば小さな学校になると、ふだんは臨時の方1人だけしかいませんよね。そういうことも含めてなんですが、本当に大丈夫なんだろうかと。何か事故が起きたときにはだれが責任とるんだろうなという心配もありますので、その辺についてももう一回お聞かせ願いたいと思います。

役場の庁舎につきましては……、済みません。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

○教育長（今野文樹君） 教育長、お答えいたします。

上多田川小学校のように10数人のいる、プラスあと教職員分ということで、大体25食ぐらいくるんでしょうかね。そういった場合には臨時の方が配置されていますけれども、これは、上多田川に限ってお話ししますと、中新田中学校の県費負担の栄養職員が毎月行きまして、その調理事項も全部計画は中新田中学校の方でつくることになっておって、そのとおりになっているかどうかという指導に行っております。また、すべての食にかかわる職員は、月に1回、何ていうんだ、あれ、検便を提出して、それが陰性反応あって初めてその仕事についているということで

ざいます。

それから、業者との、納入業者の方々とのやりとりにつきましては、正職員、それから県費負担の方でいろいろ指導監督しているわけなんですけれども、この前も加美町の給食の会議がございました。そのときに私の方も、ちょっとでもにおいしたりおかしいというときには必ず返品するなり、遠慮しないようにというような指導をしておきました。それから、窓口、教育総務課長にしていますので、業者間のことにつきましては、いろんな悩み等がありましたならば、すぐに相談してくださいというように指示しておきましたので、毎食のことですので、今後も力を入れて指導監督する分野ではないかなというふうに思っております。以上でございます。

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） 今度は業務員さんというか、用務員さんについてでありますけれども、これは例えば、先ほどちゃんとした答えいただいてなかったと思うんですが、臨時職員の対応になったときに、例えば雪掃きなり運動会の準備なりという時間の不規則な部分に対応できるんでしょうかね。その辺はどうなんですか。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

○教育長（今野文樹君） 教育長、お答えいたします。

先ほどもちょっと触れましたけれども、当然、雪が降った場合には、業務員ならずとも、教頭、教務等は、各学校、早く出勤しております。機械を使って掃いてる学校もありますし、中学校ですと、それに、業務員さんの方が手伝ってくれて言うと、部活単位なんかでもう一生懸命掃いている状態でございます。

学校には除雪機もほとんどの学校に配備されておりますので、今のところは、ちょっと雪かきがおくれることはあっても、児童生徒が学校に来たときに非常に雪が深くて困ったなんていうことは聞いておりません。以上でございます。

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） 今のところはいいですよ、まだほとんど臨時じゃないですから。だから、今のところじゃなくて、それが臨時になったときも対応できるのかどうかという話なんです。今のところは、例えば宮崎小学校の業務員さんなんかだと、役場の庁舎の方に、宮崎支所に置いてある機械を持って行って掃いたりするので、それはもう大型でだあっと掃いたりする。大型の免許を持っていらっしゃる方なので、そういう対応はできてると思うんですが、それが臨時になったときもできるのかどうかという話です。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

○教育長（今野文樹君） これは業務員の仕事ですから、臨時たりともですね、そのようにできるだけやると、やるように指示したいと思っております。ただ、大型の機械を持ってきてやるということは、業務員さんの場合は特に大きな資格は必要としていませんよね。そんな関係で、機械を動かせる人が確保できるかどうかというのはまた別な問題ではないかなと思っております。朝早くからその仕事をしていただくと、あるいはさせるということには問題はないんでないかなと思っております。その分早く帰っていただくということになると思います。以上でございます。

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） やることにはしていただくという話には問題ないんですが、できるかどうかという話なんですね。多分だんだんできなくなっていって、おくれていくのかなというふうな懸念を持っておりますということです。

そのほかのことについても、やっぱり地元の用務員さんで、地元の子供たちがかわいくて、それで業務員という仕事のせいだけじゃなくて一生懸命やったださってる方が多いものですから、ですから、ならば臨時よりもその方の体制の方がよいのかなという思いでお話しさせていただきました。この辺で終わらせていただきます。

それから、役場庁舎についてであります。聡明な町長のことですから、いい庁舎になるものだと思って期待して、この話も終わらせていただきたいと思えます。

それから、小学校の耐震改修についてであります。これはどうなんですかね。本当にさっきの答えで納得やっぱりできないんですよ。もう待ちに待った改修、しかも大型改修、ああ戸は古いままだって、何かね、気になって仕方ないんですよ。やっぱり子供たち、がっかりしてると思うんですよ。そのことなんかがね、戸の滑りもよくなったしっていうんだったら、じゃあ、せめてペンキでも塗れないですかね。そのくらいはできませんかね、お願いします。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

○教育長（今野文樹君） 特に委員会としてはですね、ペンキのことまでは考えてございません。以上でございます。

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） 戸を全部交換すると 350万円ほどだそうです。町の予算の中で 350万円ってどのくらいのウエート占めるものかわかりませんが、—— わかりませんという話はないですね。350万円は 350万円なんですけれども、それもどうしても無理だというなら、ペンキ塗るくらいの予算もないんでしょうかね。これは予定はありませんじゃなくて、考えませんかという話ですよ。確かに今のところは予定はないんでしょう。それを考えませんか教育長という話で

す。お答え願います。

○議長（米澤秋男君） 教育長。

○教育長（今野文樹君） 過日ですね、私、先ほどもお話ししたとおり、中新田小学校に行って全部のところを見てきております。その結果、特に考えてはございませんので、それで答弁させていただきたい。（「だから考えてないのは……」の声あり）

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） 答弁にはなっていないと思います。今考えてないけれども、これから考えませんかという話なんですけれども、どうですかね。副町長、お答え願えませんか。

○議長（米澤秋男君） 副町長。

○副町長（森田善孝君） いろいろ聞いておりますと、新田議員が質問しておる内容ですけれども、学校が希望してるのだから、新田議員が希望するんだか、その辺が一番何か私としては判別できない部分がありますけれども、教育長の答弁からいきますと、学校ではいろいろ協議していったと。それで、町として大規模改修をやる中で、そういう部分も検討してはいったんですけれども、予算的な面で……。

私も現場は見ました。ただ、学校、授業中でしたので校長室にも行きません。ただ、三嶋課長と担当の村山君と見てきたわけですが、直すまでのことはないだろうと。入れかえ、新しくする必要はないだろうと。直す部分があるとすれば直した方がいいと。大体見たところ、現状のままでも、ふき掃除なり手入れをすれば古民家と同じようにきれいな形になると。ただ、重い部分等があれば調整をかける。そういうことは建設課でやるべきだって指示しましたけれども、学校からそういう形で出てこないものをですね、現場を見てきた議員さんたちから、担当の係にこれをやるべきだ、予算化しろ、そういうものを言われたときに、私としては査定する段階で教育委員会に言いました。学校できちんと要望して、教育委員会で査定をかけて、必要であれば上げてもらって現場を見ると。だからきょう見たんだと。

ただ、今議員さんがおっしゃるように、私は見てきたけれども、必要と議員さんは思うけれども、町として予算的なものがクリアできない場合、ただ 350万円の金、400万円の金がどれくらいかと言われると、その 400万円の、仮に 350万円の金があったとすれば、それをベースにしてやったときには 1,000万円あるいは 5,000万円ぐらいの事業ができるのが町の予算、これはもう議員さんわかって質問しているものと思いますけれども、それぐらいできます。ですから、この 300から 400の事業展開する上で、一般財源はかなり重要な金ですから、今回直さないで現状のまま、修繕しなくちゃならない部分、締まりの悪い部分なんかは直すようと言いましたけれど

も、そのほかについては、これからですね、40年もたってますから、景観的なもの、環境的なもので整備する方向も多分出てくると思います。そのときにはそういう部分は全体的に直さなくちゃならないと教育委員会には話しましたし、議員さんにもそういう話をしておりますから、今回の予算の中では見送りはしますけれども、財政的な余裕が出てくる中で、そういうことは、もっと直さなくちゃならない部分いっぱいありますから、そういうものをクリアしたいと思っておりますので、御了解お願いしたいと思えます。

○議長（米澤秋男君） 13番。

○13番（新田博志君） 先ほどから何度も学校から上がってきてない、学校から上がってきてないって言ってますけれども、学校側とすれば遠慮もあるんだと思います。ですから学校とは言いませぬけれども、一部の親なり子供たちからは「こんなもんすか」っていう話は上がっているのは事実だと思います。例えば宮崎小学校の改修工事なんかを見ますと、もっとぼっちり直ってますよね。その様子も知ってる人は知ってるものですから、そういう声は確かに上がってることは上がっているんです。それは学校からですかと言われると、私の口からはなかなか学校からですってはいえませぬけれども、それは皆さんに対する、教育長とか副町長に対する遠慮もあると思えますので、その辺は考えてあげていただきたいなということをつけ添えて、終わらせていただきます。

○議長（米澤秋男君） 以上をもちまして13番新田博志君の一般質問は終了いたしました。